

殺菌剤

ランマンフロアブル



殺菌剤分類

21

農林水産省登録	第20624号
有効成分	シアゾファミド・・・・・・・・・・9.4% (w/w) [10.0% (w/v)]
性状	淡褐色水和性粘稠懸濁液体
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）
有効年限	3年
包装	(100mL×10本) × 6函 500mL × 20本

特長

✓ 優れた予防効果・残効性・耐雨性

優れた残効性と耐雨性により安定した予防効果が期待できます。残効が長く、作物・生育ステージによっては、10～14日間隔の散布も可能で、農薬使用回数の低減につながります。

✓ まん延防止効果（サニテーション効果）

予防効果主体の薬剤ですが、遊走子のう形成阻害作用に優れ、次世代の菌密度を効率的に抑えるので、未感染葉や周辺株への病害進展を防ぎます。

✓ 病原菌の各生育ステージを低濃度で阻害

孢子発芽から孢子形成に至る各生育ステージを阻害し、安定した防除効果を示します。

✓ 登録作物が多い

主要作物からマイナー作物まで様々な作物に登録があるので汎用性が高く、使いやすい薬剤です。

適用作物と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアゾファミドを含む農薬の総使用回数	
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (ピシウム菌)	1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ	は種時	1回	土壌灌注	1回	
				発芽後～緑化期				
ぶどう	べと病	1000～2000倍	200～700ℓ	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
かんぎつ	褐色腐敗病	2000倍		収穫前日まで				
いちじく	疫病			収穫3日前まで				
日本なし								
小麦	褐色雪腐病	1000倍	100ℓ	根雪前	3回以内	無人航空機による散布		
		250倍	25ℓ					
		8倍	0.8ℓ					
あずき	茎疫病	原液	種子重量の2%	は種前	1回	種子塗沫	4回以内 (種子への処理は1回以内、散布は3回以内)	
		1000倍	100～300ℓ	収穫7日前まで	3回以内	散布		
だいず	茎疫病 べと病	原液	種子重量の1～2%	は種前	1回	種子塗沫		
		1000～2000倍	100～300ℓ	収穫7日前まで	3回以内	散布		
えだまめ	茎疫病	原液	種子重量の2%	は種前	1回	種子塗沫		
	茎疫病 べと病	1000～2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布		
さといも	2000倍	収穫前日まで		2回以内				
ばれいしょ	疫病	1000～2000倍	25ℓ	収穫7日前まで	4回以内	無人航空機による散布	4回以内	
		375倍						40ℓ
		600倍						3.2ℓ
		32倍						
キャベツ	べと病 ピシウム腐敗病	2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	4回以内	散布	6回以内 (育苗期の灌注は1回以内、本圃での株元灌注は1回以内、散布は4回以内)	
	根こぶ病		250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
	根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約2.5～7ℓ) 当り2ℓ	定植前日～当日	1回	灌注		
カリフラワー	べと病	2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	4回以内	散布		
	根こぶ病		250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
	根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約2.5～7ℓ) 当り2ℓ	定植前日～当日	1回	灌注		
はくさい	べと病 ピシウム腐敗病	2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	4回以内	散布		
	白さび病		250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
	根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約2.5～7ℓ) 当り2ℓ	定植前日～当日	1回	灌注		
非結球あぶらな科葉菜類 (なばな類を除く)	白さび病	2000倍	100～300ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	

エンサイ							
なばな類	白さび病	2000倍	100~300ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
	根こぶ病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット 1冊 (30×60cm、 使用土壌約2.5~ 7ℓ) 当り2ℓ	定植前日~当日	1回	灌注	5回以内 (育苗期の灌注は1回以内、 本圃での株元灌注は1回以内、 散布は3回以内)
2000倍							
ブロッコリー			100~300ℓ	収穫3日前まで	3回以内		
きゅうり	べと病	1000~2000倍	150~300ℓ		4回以内		4回以内
メロン							
ズッキーニ		1000倍	100~300ℓ				
すいか	褐色腐敗病	1000~2000倍	150~300ℓ		2回以内		2回以内
とうがん	疫病	2000倍					
にがうり		1000倍	100~300ℓ				
かぼちゃ	べと病 疫病	2000倍	150~300ℓ	収穫前日まで	3回以内		3回以内
トマト							
ミニトマト	疫病	1000~2000倍			4回以内	散布	4回以内
ピーマン							
とうがらし類							
なす	褐色腐敗病						
ねぎ	べと病	2000倍	100~300ℓ	収穫3日前まで	3回以内		3回以内
わけぎ							
レタス							
非結球レタス							
ほうれんそう							
葉たまねぎ							
たまねぎ	べと病 白色疫病			収穫7日前まで	4回以内		4回以内
みょうが(花穂)	根茎腐敗病	500倍	3ℓ/m ²	生育期 但し、 収穫3日前まで	3回以内	土壌灌注	4回以内 (種根茎浸漬は1回以内、 土壌灌注は3回以内)
みょうが(茎葉)	根茎腐敗病	200倍	-	植付前	1回	30分間 種根茎浸漬	
							500倍
しょうが		500~1000倍	1~3ℓ/m ²	生育期 但し、 収穫30日前まで	3回以内		3回以内
葉しょうが	2~3ℓ/m ²		生育期 但し、 収穫3日前まで				
こんにゃく	根腐病		3ℓ/m ²	収穫14日前まで			
畑わさび	白さび病		150~300ℓ	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
わさび				畑育苗期			
かぶ	べと病 白さび病		100~300ℓ	収穫3日前まで	3回以内		4回以内 (は種時の灌注は1回以内、 散布は3回以内)
	根こぶ病		2ℓ/m ²	は種時	1回	灌注	
だいこん	ワッカ症 白さび病	2000倍	100~300ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
はつかだいこん	ワッカ症 白さび病 べと病			収穫3日前まで 但し、伏せ込み 栽培は伏せ込み前まで	2回以内		
みつば	べと病			収穫3日前まで	4回以内		4回以内
バジル			150~300ℓ	収穫3日前まで			
おかひじき			100~300ℓ				4回以内
らっきょう	白色疫病						4回以内
			50ml/株	育苗期			4回以内

いちご	疫病	500~1000倍	100ml/株	生育期 但し、 収穫30日前まで	2回以内	株元灌注	(育苗期は2回 以内、定植後は 2回以内)
ホップ	べと病	2000倍	200~700ℓ	収穫14日前まで		散布	2回以内

※ 本内容は2023年12月20日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 使用直前に容器をよく振ってください。
- 予防効果主体なので、できるだけ発病前または発病初期に散布してください。
- 小麦、ばれいしょに対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
- 根こぶ病防除に使用する場合、発病が激しい圃場では効果が劣ることがありますので、土壌処理剤と組み合わせて使用してください。
- キャベツに灌注処理する場合は、品種によっては初期に軽度の生育抑制がみられることがありますが、実用上に問題はありません。
- 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落としてください。
- あずき、だいず及びえだまめの種子塗沫に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
 - ・ 使用前に容器をよく振ってから塗沫処理を行ってください。
 - ・ 薬剤の使用量を守り、水等で希釈せずに使用してください。
 - ・ 塗沫処理は播種当日または前日に行ってください。
 - ・ 薬剤が種子に均一に付着するように処理した後、速やかに広げて乾燥させてください。
 - ・ 本剤を処理した種子を食用など目的外に使用しないでください。
 - ・ 本剤処理後の播種から発芽までの時期は土壌が過湿にならないように注意してください。
- 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - ・ 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - ・ 散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ・ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ・ 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - ・ 散布終了後は次の注意を守ってください。
 - (a) 使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
 - (b) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。
 - (c) 散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄してください。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないでください。
- 散布器具の洗浄水および残りの薬液は河川等に流さず、容器等は環境に影響を与えないよう安全に処理してください。
- 使用液量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

安全使用上の注意事項



- 使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。
- かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。

魚毒性等

浸漬後の薬液は河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管

密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して冷涼な所に保管してください。